



自殺者数が15年ぶりに3万人を下回る

厚生労働省が発表した「2012年人口動態統計」によると、2012年の死亡者数は125万6,359人で、前年より3,293人増加し、過去最高となった。死亡順位は1位が悪性新生物(36万963人)、2位が心疾患(19万8,836人)、3位が肺炎(12万3,925人)となっている。

悪性新生物は全死亡の28.7%にあたり、およそ3人に1人が悪性新生物で死亡していることになる。悪性新生物の部位別では、男性は1位の肺がん(5万1,372人)の上昇傾向が著しく、2位が胃がん(3万2,206人)、3位が大腸がん(2万5,529人)、女性は1位大腸がん(2万1,747人)、2位は肺がん(2万146人)、3位胃がん(1万6,923人)で、大腸がんと肺がんの上昇が続いている。

一表10 死因順位・第10位までの死亡数一

	総数		男性		女性	
	死因	死亡数(人)	死因	死亡数(人)	死因	死亡数(人)
	全死因	1,256,359	全死因	655,526	全死因	600,833
1	悪性新生物	360,963	悪性新生物	215,110	悪性新生物	145,853
2	心疾患	198,836	心疾患	92,976	心疾患	105,860
3	肺炎	123,925	肺炎	66,386	脳血管疾患	62,977
4	脳血管疾患	121,602	脳血管疾患	58,625	肺炎	57,539
5	老衰	60,719	不慮の事故	23,714	老衰	45,982
6	不慮の事故	41,031	自殺	18,485	不慮の事故	17,317
7	自殺	26,433	老衰	14,737	腎不全	13,272
8	腎不全	25,107	慢性閉塞性肺疾患	12,866	自殺	7,948
9	慢性閉塞性肺疾患	16,402	腎不全	11,835	大動脈瘤および解離	7,517
10	肝疾患	15,980	肝疾患	10,441	糖尿病	6,847

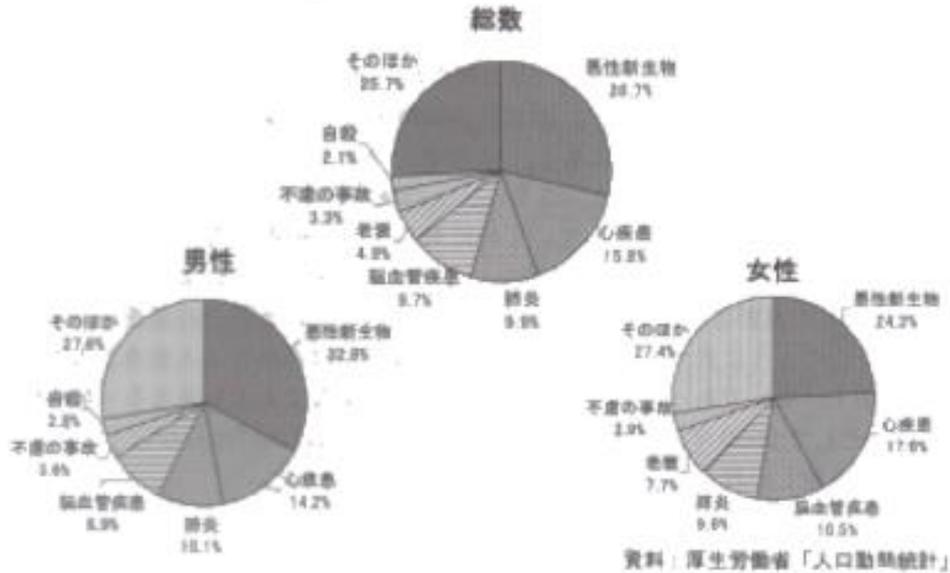
資料：厚生労働省「人口動態統計」

自殺者数については3年連続減少し、15年ぶりに3万人を下回った。自殺者数が減少した要因として、経済環境の好転が考えられているが、就職難が問題となっている20代を中心とする若い世代の自殺率は高い水準にある。





―表 11 死亡総数に占める割合―



―表 12 悪性新生物の主な部位別にみた死亡数―

男性			女性		
	部位	死亡数(人)		部位	死亡数(人)
	悪性新生物の合計	215,110		悪性新生物の合計	145,853
1	気管、気管支および肺	51,372	1	大腸	21,747
2	胃	32,206	2	気管、気管支および肺	20,146
3	大腸	25,529	3	胃	16,923
4	肝および肝内胆管	20,080	4	肺	14,399
5	肺	15,517	5	乳房	12,529
6	前立腺	11,143	6	肝および肝内胆管	10,630
7	食道	9,724	7	胆のう	9,245
8	胆のう	8,964	8	子宮	6,113
9	悪性リンパ腫	6,069	9	膵臓	4,888
10	口唇、口腔および咽頭	5,166	10	悪性リンパ腫	4,762

資料：厚生労働省「人口動態統計」

